

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023年9月7日

<p>団体名</p>	<p>石川シングルマザーの会</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>ひとり親世帯 親子でスキルアップ教室</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>		<p>■ 活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「置かれた環境に関わらず、誰もが生きづらさを感じることのない社会」である。 具体的には、各々の得意な分野を活用して社会に貢献する親の姿を子どもたちへ見せていくことで、親から子へ「力強く生きる力」を引き継いでいく。それにより、貧困の連鎖を断ち切り、誰もが自分らしく生きられる社会の実現をめざす。</p>		<p>ICTスキルアップ教室</p> <p>子どもを預けて、学びに集中。オンラインとのハイブリッド開催も実施。</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体のミッションは、「母と子が自分らしく生きる 第一歩を支える」ことである。 具体的には、以下のような取組を推進している。 1) ひとり親の孤立感を解消するための交流事業、自己肯定感を上げるためのセミナー事業 2) 子どもたちの生きる力や向上意欲を育てるための体験格差解消事業 3) 金銭的な不安を軽減し、次のステップへ踏み出す力を得るための生活支援事業 4) 支援団体同士のつながりを作り、それぞれの活動情報を必要な人へ繋げるための情報発信事業</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●望ましい人的資源：団体の継続的な運営を支える常勤スタッフが必要である。 ●望ましい物的資源：活動拠点となる場所（現在は市の市民活動スペース等を利用）、寄付物資の保管場所の確保。 ●望ましい活動資金：継続寄付や自主事業による自主財源の確保。自主事業で収入を確保し、ひとり親をスタッフとして雇用する。 ●望ましい情報：個々のスタッフが得意分野で人脈を形成し、横の繋がりを広げることにより、幅広い支援活動を可能にしていく。スケジュールや支援者一覧などの情報を共有する。スタッフが誰でも情報発信できるようにする。</p>			
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>●ひとり親ICTスキルアップ教室 1期：自分の得意分野で活用するために必要な幅広いITスキルレッスンを実施。 2期：在宅ワークで使えるデザインスキルとリモートワークスキルのレッスンを実施。</p> <p>●ひとり親世帯の子のプログラミング教室 ビジュアルプログラミング教材を使ったゲーム制作を実施。</p> <p>●事業についての情報発信 公式サイトやSNSを活用し、事業内容を周知。</p> <p>●団体基盤強化 2～3か月毎に定例会を行い、スタッフ間の情報共有を強化。 SNS運用ガイドラインを作成。SNS運用スタッフの育成。企画者の育成。</p>	<p>●ひとり親ICTスキルアップ教室 1期：全6回実施。受講者4人中3人が最終発表プレゼンを行い、学んだ内容の前向きな活用方法を提示。 2期：全6回実施。11名中7名がチラシを完成、提出した。</p> <p>●ひとり親世帯の子のプログラミング教室 1期、2期、共に全6回実施。5名中5名の全員がゲームを完成させ発表できた。</p> <p>●事業についての情報発信 月平均投稿頻度：HP 6回、Facebook5回、Instagram 4回、LINE3回 登録者数：公式LINE 530名→737名、Facebookグループメンバー 200名→301名、Instagram フォロワー 0→212名</p> <p>●団体基盤強化 2～3か月毎に定例会を行い、スタッフ間の情報共有を強化。 SNS運用ガイドラインを作成。SNS運用スタッフを2名育成。企画者を1名育成。</p>		<p>こどもプログラミング教室</p> <p>母親がICTスキルアップ教室で学んでいる間、子どもたちもプログラミングを学ぶ。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>●ひとり親ICTスキルアップの1期目では幅広いリモートワークスキルレッスンを行ったが、実務として活用するには広く浅くよりも1つのスキルを深掘りするほうが実用的かと想定し、2期ではチラシデザインに特化して募集を行った。その結果、応募人数が1期の4倍となったため、対象を絞ったカリキュラムが必要とされていることが判明した。 ●チラシデザイン講座のカリキュラムが完成したため、今後は講師を育成することで、同カリキュラムを使用した教室を増やすことが可能となる。 ●こどもプログラミング教室も全6回分のカリキュラムが構築された。 ●事業の開催報告をこまめに行うことで、次回の応募者の安心に繋がり、参加者の増加に繋がった。 ●Instagramアカウントを作成し運用したことにより、新規利用者が増加した。 ●SNS運用ガイドラインを作成し、団体内での共通ルールが適用されるようになった。</p>		<p>・学び続ける親の姿を子どもたちが目にすることで、親から子へ「力強く生きる力」を引き継いでいく。それにより、貧困の連鎖を断ち切り、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指すという当団体の目標を達成するために、親子でICTスキルアップ教室を継続的に実施できる環境を整えることが必要とされる。 ・開催日時と開催場所の増設のためには、拠点と講師の確保が課題となる。 ・拠点については、2023年6月より当団体で契約している物件での開催を検討している。 ・講師の育成、他拠点への展開については未定であり、まずは運営資金の確保をめざし、広報に注力していく。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>ひとり親家庭の親と子が、共に学ぶ機会と親子のコミュニケーションの時間の提供</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>2期生受講者11名中、最終課題（チラシデザイン）を提出できたのは7名、「チラシデザインができるようになった」とアンケートで答えたのが6名。受講後アンケートでは回答者8名すべてが、自己実現のための行動を起こし、子どもと向き合う時間も取れていると回答した。</p>